（二十五日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭、第一、第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（一行五十錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話[illegible]

式年遷宮 奉拜並巡禮記（一）

平消防組頭　井上茂作

本縣消防組代表として內宮奉拜式奉拜の光榮を荷ひ十月一日午後九時五十五分東京驛發鳥羽行急行列車に投乘出發したり。車中一人旅何となく物淋しく感じたる折柄、知人茨城縣湊の組頭宮内庄兵衛氏車中に在り同氏も即ち奉拜の爲めなれば能き道連れと、共に喜び乘客は多數、中々の混雜眠ることも叶はず種々の雜談に時を移しつゝ、中京名古屋も過ぎ・翌二日午前十時半宇治山田驛に着・驛前油屋支店に少憩宿屋を記中、福岡縣發祥寺副住職の國吉、佐賀縣唐津町木下吉六の兩組頭も一行に加わり、同勢四人となれり。何れの宿屋も大繁昌にて一二人は宿を取る事困難なれば少なくとも四人となれば一室は得らるべしとの考へを以て、交渉したる結果漸く古市油屋本店に腰を卸すことゝなり先づ入湯し五體を淨め、午後二時半內宮に向ふ。此日朝來穩かならぬ雲去來せしが果然雲雨と變じたり、雨具の用意乏しきものは雨に冒され氣の毒なりき、生憎の一行も亦不用意の組にて洋傘外套は携帶せしも履物辨當の用意なかりしは不便にて

特別　奉拜所は舊宮と新宮の中央の位置に設けられ板を張り莚を敷き洵に結構なる設備なりしも莚は濡れて腰を卸す能はず、空腹を感ずるも食するもの一もなく、唯々遷宮の御渡御を待つのみなりしが、偶然にも隣席に縣廳の山川學務官、市川藤好、平伏見町長あり新聞紙數枚と食パン一斤を惠まれ、時に取ての助舟、非常に嬉しかりし爲め元氣恢復、無事に奉拜し得たるは深く感謝する處なり。畏れ多きながら今茲に宮造營の事を叙せん。垂仁天皇の御の地に大宮を造營せられたのである。時に皇紀六百五十六年、今日より數へて一千九百三十三年の悠久の昔に遡るのである。爾來神宮は國家最高の宗祀として、歷代天皇の御尊崇篤く皇威赫々として皇運と共に天下に遍照し、四海普しく嚴大無窮の御德に浴しつゝありと拜察するのであります。此難有式年遷宮式を奉拜するの光榮に列したる吾々は誠に幸福の至りで感謝措く能はざるものであります。式は午後八時より始まり舊宮より新ぐうに

御渡　御遊ばざるのでありますが殆んど暗き闇に行はせらるゝ事とて、幽かに絹垣が眼に映じたるぞき唯何となく莊嚴の氣に打たれ、數千の奉拜者粛として咳拂ひする者の一人もなく、其神々しさは筆紙の盡す處にあらず、何處の御在しますかは知らねども唯難有さに涙零るゝと謂ふ外他を言ふて知らず。約九時苑内を出でたり。尚は奉拜中忘れ難き一人は奈良縣內務部長早川三郎氏之れなり。同氏より聲を掛けられ、法隆寺の消火設備を視て行かぬか、見るなら案內の使を與ふべしと深切なる御進めに應じ拜見すべしと約したれば、翌三日午前八時奈良に出向するに當り一行三人と同行することゝなり。先づ早朝外ぐうを拜し山田驛出發奈良驛正午着、早川氏を縣廳に訪れ同氏の厚意を以て法隆寺へ電話にて紹介あり而して自動車を出し呉れたり、法隆寺は同縣生駒郡法隆寺村に在り、法相宗三本山の一にして用明天皇の御素願を遂ぐる爲め推古天皇及聖德皇太子の御素願御草創に係り、推古天皇十五年即ち西暦六百七年に完成給へる

由緒　最も尊き大古剎にして、太子本願七寺の随一たり。草創以來前後一千三百年七堂伽藍儼として存し、御燈炳として輝き佛教央上特に藝術史上飛鳥時代の代表的建築と天平藤原鎌倉足利各時代の諸殿堂、即ち金堂塔婆中門廻廊等の聖院伽藍を初め、上ぐう王院舍利殿繪殿傳法堂等東院の伽藍は甍を並べ、其內外別保護建造物二十七棟、之に安置所藏せらるゝ根本の御本尊藥師三尊佛の外、無慮百有數點は一として崇高善美の極致にして、代表的古代文化の結晶表現ならざるはなく、當時の文化を追憶して讃仰憧憬內外の凝視する處なり。

馬鈴薯（じやがいも）

クルト・フーン

月が空にかゝつてゐるある晩
母親と俺は畑に行つた
二人は兩手で山のやうに掘り起した
メルヘンにあるやうな馬鈴薯の山を
父親が戰爭に引出されてゐなかつた
互ひに殺し合ふあの呻き聲と刺し殺される戰争に
俺と母親とは幾夜寢床から飛び起きたことか
——父親が殺されたのではないかといふ恐怖
いつも二人は眞夜中に田圃を横切つて
村々を忍んで歩かねばならなかつたそして
「ラインの守」を歌つて
父親は遠く
他郷の戰場に俺たちとはなれたゐた
俺は兩眼をジッと閉ぢて
馬鈴薯の袋に手をかける
母親の吐息が冷たく石のやうに俺をうつ
口笛を吹きふるへた聲で
唄をうたひながら
町にもつてゆく馬鈴薯を脊負つた
家々の軒が深く傾いて
頭節を壓しつける馬鈴薯の上におちかゝる
喘ぎつゝ
俺は俺を凝視めてゐる人々の前を走る
家に歸ると二人は馬鈴薯の砂を洗ひおとすのだ
可愛いゝ飾り物でもあるかの如く
袋がねぢれると二人は注意深く一方の手で水煙が吹き飛ばすのを拾ひ上げる
町からはなれた美しい畑地
人々が夏花を摘む畑地
そのうねうねとした畑に
立つたまゝ
メルヘンのやうな馬鈴薯の山について考へに沈んでしまふ

（平田　哲譯）

心地良キ秋ガ訪レマシタ
秋向着尺
モスリント
帶側ガ澤山入リマシタ
ゼヒ御用意ヲ
三丁目
龜田屋
電[illegible]

小說

死を超ゆる者

(120)　三上於菟吉作　布施平八郎畫

永遠の呪咀（一）

「さう願れば結構だ」

「宿のたかみにさう言つて置くから君まあ着物を取替へたまへ」と村越は飛び立つやうにガタと障子をあけて下へをりて行つた

勇もトランクを開けて和服になつた。二人は書生らしくて拭をぶらさげて明かるい町を間近から洗湯の方へ出て行つた。

× ×

都下實業界の一角に威を振つてゐた資本團が、殆ど悉く連座して疑獄は、滿都の人心を聳動した檢擧ももうこれで打切りだと一般に考へられても、後から後からと隱れた蔓に引よせられてみにくいものがだんだんに姿を現して來た當局も手をゆるめる譯にはゆかなかつた。秋風が立初める頃になつて漸く第一回の公判が開廷される運びとなつた。

晦い、冷たい壁に圍まれた獨房の中で間は永い苦しい一日一日を持て餘して居た。連類者のある一部保釋を許された者もあつたが數罪のある彼だけは中々その恩惠に浴することが出來なかつた、牢獄裡の堪へ難い暑さと精神的苦惱とに惱まされた體は、夏が過ぎるとめつきりやつれてしまつた。象のやうに細い眼はあの世智辛い光りを失つてどんよりと鈍り、重たく垂れさがつて居た頬肉には淺間しい皺がきざまれ豚のそれのやうに厚い唇は黒ずんだ一日一回許される遊歩の時に立つてあるいて見ると膝頭が力を失つて、ともするとよろけて倒れさうになるのであつた。讀書は許されて居た。が彼は人々の心遣ひに差入れて呉れた幾冊かの書物を手にしても、それがなか／＼氣苦しく感ぜられてをち／＼とひもとかうともしなかつた。どうしたら言ひのがれるだらう。言ひのがれないまでもどうしたら罪を輕減することが出來るだらう……思ひは狹い暗い道を空しく行つたり來りして居るうちに疲れ萎れて了つた。辯護士だけが浮世との交渉の仲立であつた。彼は勿論とき子の事を一時たりとも忘れる事は出來なかつた、苦しい胸ははりさけさうにとき子の事ばかりに惱んで居た、けれども今かう言ふ身の上になつて見れば物質的な諸問題や裁判一件に比ぶればとき子などは殆ど比較にならなかつたただ折々妙な不安が彼の心を暗くした。自分がこうしてとぢこめられて居る間彼の女はどう言ふ日を送つて居るであらう。其處に暗黑な嫉妬の樣なものが感じられるのであつた。勿論社會に居る頃でもこれに似た感じを彼の女に對して抱かずには居られなかつたが冷酷な境遇か一層その邪まな疑念を煽つた。彼は辯護士の力をかりて彼の女を面會に來させるやうにして貰つた

一方とき子は銚子から本邸に歸つて以來相變らず外界と絶縁した樣な生活を送つて居たが、それでも間と同棲して居た頃に較べれば格段にのんびりと生きて行く事が出來るのであつた彼の女は間の入獄と間もなく密接な關係を保つて居る銀行が豫想通りに取付けに遭ひ炭礦や製糖會社の株は急轉直下の勢ひを以て暴落し間家の家產は殆ど收集すべからざる狀態に瀕して了つた事を聞き知つたのである。

毛糸
本年は昨年より御安う御座います
毛糸見本帳進呈
一オンス　十五錢　十八錢　二十五錢
（中細・極細・スコツチ等……澤山入荷致しました
平町田町　藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

夜間診療
胃腸　花柳
內科　十二指腸虫病　專門　內科部
淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

元氣なお子さん方に
趣味と經濟の洋服
素的なブラウス
丈夫なスカート
ブラウス　一圓六十錢ヨリ
スカート　一圓二十錢ヨリ
平四
ツルヤ
電一四〇

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾、皮膚病　市原三三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）電話一一四番

松島名産
カキ貝御料理
十六日ヨリ
カキフライ
カキライス
カキナベ
スカキ
品々
洋式宴會仕出し
平田町
一の井
電一六七番

◉診療開始
耳鼻咽喉科專門　日本醫大醫學士院長　鈴木正男
齒科口腔外科　日本齒科醫學士科長　高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二一九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします。お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
(久)釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…
電一二四番

X光線科
外科專門
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
上田外科醫院
電話一二九

健康第一
健康は胃腸から
ホシ胃腸藥
クスリはホシ
星製藥株式會社
東京・大阪

正義派と政友が合流して
利權議員を一擊に粉碎
例の水道起債反對問題で
注目をひく平町會

平町會少壯議員によつて行はれた電燈値下運動は何時頃からか立消えの形となつてゐたが之と同時に東部電力會社對議員中の某々有力者との間に醜行爲が傳へられ平署高等係が活動中最近怪聞は俄然進展し單に某氏のみならず兩議中の大半はこれに連座してゐるとの濫言が流布されるに至つたので斯儘沈默するは平町會の威信にも係はると議員中は右事件を調査すべしとの聲次第に高くなり殊に疑惑の目を以て見られてゐるが民政派中正義派と稱する萩原吉郎氏等は醜聞問題は超政黨的なりとの政友派中の少壯議員千葉、高橋、馬目(武)[illegible]內、猪狩の諸氏と步調を一にして是れが清廓運動を起こすことゝなりより〳〵協議中であるが二十七日ころ招集される町會には然かも當つて町會一致で決議申請中の上水道工事起債認可に反對運動をなしてゐる民政議員中の利權組に對し超黨派的に斷乎として糾彈するものの如く非常に注目されてゐる

四倉港調査
技手二名來濱

四倉町漁港調査のために農林省より小田技師並に川瀨技師外二名は來る廿八日來倉約一ケ月間に渡り面密なる調査をなす筈

區有金の三割を
組合に分配せよ
小泉町長に迫った
湯本溫泉組合

石城郡湯本町は諸炭鑛の坑下採掘の影響を受け溫泉の湧出は勿論の事飲料水にまで事缺く程地下の水脈が絕たれ現在上水道設置の計劃を進めてゐるが溫泉湧出が停止した當時種々問題が起き入山炭礦では十ケ年間毎年四千五百圓を同町大字湯本區會に溫泉、飲料水の補助費として支出して來たがこの補助金は何れも大字湯本區會の基本財産となつたのみで直接に被害を受けた溫泉旅館の營業者は何等の補助も受けない仕末であるため本春以來之等營業者はこの補助金の三割乃至四割を營業者の救濟金として貰ひたいと運動を續けて來たが、二十三日同町の營業者七十餘名連署にて陳情書を作り塙信八外委員數員が小泉町長に此の陳情書を提出した、この補助金の積立金額は三萬餘圓に達してゐるので、その三割を支出するとしても九千餘圓に達する金額で溫泉として衰微した湯本町の營業者を救濟するには充分な額なので營業者は結束して之が實行を期す由でこの成行は頗る注目されてゐる

裁かるゝもの
世を驚かした大罪人が
事件以後の起居樣々

世上を「あつ」と云はせたセンセイシヨナルな事件も、人の噂は七十五日式に忘れかけやうとしてゐる、今、これらの事がどうなつてゐるか、彼らはどうしてゐるか、曰く「ピス平事件」……「山宣を殺した黑田」……千住事件の五味田中」そして昭和四年の時代的所產(?)「說敎强盜の妻木松吉」…「講談强盜」……等々。さて彼等の昨今をたづねて見る

巡查殺しのピス平

昨年八月十日東京市外下落合で戶塚署の巡查渡邊鐵夫(三八)に不審訊問されて、同巡查をピストルで射殺して逃走、さらに十二日本鄕湯島天神境內で本富士署巡查原冬至(三二)の胸部に三射擊して瀕死の重傷を負はせた和歌山生れ强盜前科六犯の中村一平は、上野觀月橋上の大捕物であつた。一平は上野署の柔道三段高橋巡查に手柄をされたが、無期懲役を言ひ渡され、いま東京市外千住在の小菅のモダン刑務所一階の雜房に默々としてゐる。彼は今年四十七。

山宣殺しの黑田

無產黨代議士山本宣治を刺殺した七生義團員黑田保久二(三七)は去四月卅日殺人罪として起訴され、保釋出獄から大きな波紋を描いたが、七月十二日懲役十二年の判決言ひ渡しをうけた、ところが辯護人が控訴の手續をとつたので、いま市ケ谷刑務所に未決囚として收容されてゐる

千住事件の五味と田中

昭和ルパン物語り、千住中組の醬油屋主人夫婦と同家の小僧を殺害した、奇怪をきわめた殺人事件の自動車運轉手、東京市外杉並町馬橋一四五、五味鐵雄(三八)と東京市外本田町四三田中藤太(四二)の兩名は去る一月東京地方區判所梨田豫審判事の取調をうけてゐたが、千住事件は兩名とも强盜罪、殺人罪と豫審決定、七月八日公判にまわされた、ところが大岡山の三人殺をも自白したゝめ、檢事局でも變な具合になり、この方は中島檢事が約八ヶ月取調べを續けいよ〳〵兩名の犯行である確證が擧げられたので、九月二十五日夕刻强盜殺人罪として追起訴された、五味も田中も市ケ谷の未決におさまつてゐる

說教强盜の妻木松吉

數年に亘つて警視廳をほんろうしてゐた帝都內外荒しの說敎强盜、市外西巢鴨町向原左官職妻木松吉(三九)は去る二月捕はれてから、あきらめよくすら〳〵と百件近くの强盜と竊盜を自白したこれは犯罪件數が多いため豫審中で、いま市ケ谷刑務所にゐる最近妻女の可憐な心中立が新聞紙を賑はし淚をさそつた

講談强盜の岡崎秀之助

三宅やす子、下田歌子邸を襲つた講談强盜岡崎秀之助(三六)は銀座の松坂屋で捕はれた、强竊盜十五件を自白して「長い間お世話になりました、今夜限りでお別れですね」と築地署員、愛ヶ言つた去る四月七日檢事局の渡邊檢事の取調べをうけた後市ケ谷の刑務所に收容され豫審中であつたが十月四日豫審結强盜罪として公判に附せられた

蛇喰ふ糧道先生
實は食はせ男
醫學士なりと振れ込み
若い女引つ掛る

中町の平館や聚樂館その他に於て前後數回に亘り蛇や死や石を喰ふと云ふ恐ろしい振れ込みで興業めいた事をやらかし話題の種を蒔いた熊谷糧道こと〻みや城縣伊具郡櫻田生れ熊谷政治(三九)は佐伯博士の主宰する內務省營養研究所囑托技師で醫學士であると振れ込み內鄕村みや町田稻本ミイ(三二)を虛言を以て欺き研究所の助手に採用してやるとて履歷書を取り屢々會見し前記ミイ女は之れを眞に受け採用の辭令が來るものと待つてゐたが來ず信じた糧道先生は行衛が知れぬので待ち遠しく直接佐伯博士の所に紹介したので研究所では熊谷某など全然關係なく事情を調査し前記稻本ミイ女に此旨言傳ひて貰ひたいと二十五日平署に依賴して來た

平三校工事
意外に進涉

平町が新設する第三小學校建築工事は去る八月七日平町新川町丸百佐藤福太郎氏が金四萬五千八百五圓五十錢で請負工事中であるが既に六割以上の工事進捗を見たので同町では佐藤氏に對し工事費の內金二萬圓を二十一日支拂つたが來月早々上棟式を擧げる筈

拾得物横領
平署に檢擧さる

平町鎌田町居住土下小川新年助(四七)は去る十七日午後四時頃新川町地內でアンモニャ一俵を拾得しこれを月見町の根本幸一に四圓八十錢で賣却したこと發覺し拾得物横領として二十五日平署に檢擧された

磐中と平商
あす劍道試合

平商業學校では明二十六日同校に於て第三回磐中對校の劍道仕合を行ふ筈であるが一勝一敗にして明日の試合こそ兩虎の勇を決せんと意氣込旺むにして興味を惹いてゐる

平局慰安會
竹の子の觀劇會

平郵便局では廿五、廿六の兩日平町聚樂館に於て目下開演中の下山竹の子一行の觀劇會で局員家族慰安會を開催中である

四倉の鰯漁
今期二十萬圓

四倉町にける六月より九月迄の鰯の賣上金額は稻荷丸の二萬二千九百三十四圓四十錢を最近とし外十九船にて合計十八萬四千百二十圓に達したが昨年度に比し幾分減少である

平商業學校
組織變更
許可方を申請

平町々立平商業學校では縣立に移管する前提として昭和五年度から組織を變更し修業年限を二箇年間延長して五箇年制とし入學者は二百名を增加し五百名とするに町會に於て決定を見たが平町では二十三日正式に此組織變更の認可方を文部大臣に申請した、此認可があれば既定計劃に依り明年度から五年制を實施し同時に町立を縣立に變更して乙種程度のものを甲種にするやう運動をなす由であるが、此組織の變更は平町民がひとしく希望として居る所であり縣立となることに依つて中等學校の入學難も幾分緩和されることになるものと見られて居る

一萬五千筆に達す
石城郡の異動地
申告は八割の好成績
年內に調査完了

平稅務署に於ける異動地調査は石川署長、阿部直稅課長以下總動員で調查中であるが移動地總數は一萬五千七百筆でその內申告によるもの一萬二千筆に達し此の申告書に基く調查は十月末日直に全部結了し殘餘の分に對する調查も十一月末日迄に完結する豫定であるが右に關し阿部直稅課長は語る

異動地總數に對し約八割の申告を見ましたことは殊に好成績で當局も喜んでゐます、申告したものに對しては特に既往にさかのぼらざる特典があるから申告せず當局が發見した分に對しては異動より三ケ月以內の條項に照らし課稅することゝなるらは萬一止むを得ない場です」云々

稻作品評會
けふから開催

石城郡農會主催平町外八ケ村聯合の稻作增收品評會は左記日割で行ふ筈

(廿四日)湯本、鹿島、平窪(廿五日)好間、夏井、飯野(廿六日)神谷、草野、平町

尙ほ郡農會主催の椎茸品評會は十一月七、八の兩日川前村に於て開くと

袖引き酌婦
科料三圓に處さる

平町南町飲食店酒井ヨシ方酌婦宇賀神ヤイ(三〇)は十九日午後十時頃自宅店頭に於て通行中の平鐵道合宿梶山榮治(三三)を呼び止め駄菓子を與へて誘引した廉により科料三圓に處さる

巡查を上げて
腰を抱く
酌婦科料處分

平町南町飲食店江口たか方酌婦遠藤チヨ子(一八)は十九日午後十時半頃自宅店頭に於て通行中の平署小平森巡查を呼び止め二階に引き揚げ同巡查の腰部を抱ね又は自ら立膝となり赤き腰卷を露出せしめ誘引行爲をなした廉により科料三圓に處さる

女給のお灸

平町白銀町カフヱーステヂ高橋定治方女給齋藤キク(一六)は十八日夜白銀町松崎屋旅館止宿人松本某外一名に對し無免許にて酌婦行爲をなし科料三圓に處さる

辯駁書揭載請求書

昭和四年拾月二十三日付發行第二千六百六十五號磐城新聞に野崎氏乾分を引具して若松美三氏宅に踏込む平署矢野特高迄引合ひに罵り合ひの大喧嘩と題する記事を見るに小生が去る拾九日夜乾分を引具して民政黨倶樂部の若松美三氏宅に踏込み暴言を吐き萩原氏を攻擊し矢野警部補の言辭迄引合ひに出し激論せる旨記載しあるも小生は十八日福島市に出向し滯在し貳拾日に歸平したるものにて全然平町には不在なり元來民政倶樂部は自分等の努力に依り大正十二年建設したるものに依り平素出入を爲し度々同志と會合する事は自由なるも前後を通じて乾分を引具し住居侵入暴言罵倒の事實無之十五日は近村村長と會見の爲め是又不在なり該記事は小生の社會上に於ける大なる名譽と信用を失墜毀損致すべきに付此辯駁書全文を貴紙第貳面初段二段に第二千六百六十五號記事と同號活字を以て揭載相成度名譽と信用保持の爲め新聞法第十七條に依り請求候也

昭和四年十月二十四日

石城郡平町字田町十番地　野崎滿藏

町字田町拾六番地　磐城新聞社御中

倉庫が半燒
ゆうべ十時半

內鄕村磐城炭礦綴製作所の倉庫內から二十四日午後十時五分發火し二間に四間の倉庫を半燒にして同四十分鎭火したが原因取調中

少女轢かる
貨物自動車に

石城郡玉川村字大川原吉田治方同郡小名濱町草野新兵衞長女たか(八)が去る二十二日午前八時頃登校の途中小名濱町から疾走し來つた同町吉田長八所有の貨物自動車に轢かれ生命危篤

金一圓を出して
人の妻に迫る
仲間町の石山秋美
平署に檢擧さる

平町仲間町米穀貸商西山秋美(三九)は同町戶塚末晴の東京に出稼ぎに行き留守中を奇貨として去る十八日午後十一時ころ末晴方に侵入し妻キヨ(三〇)の寢室に至り怪しき振舞ひに及ばんとしたるキヨが應せぬ爲め現金一圓を出し「金にさいなつたらよいではないか」と無理を聞かさんとしたがキヨは頑强に拒絕しその儘立ち去つたこと平署に探知され家宅侵入罪として二十五日平署に檢擧された

雇人雲隱れ
主人から搜查願ひ

石城郡磐崎村字藤原三郎長男藤井政雄(二五)は本月二日埼玉縣川越染物業白砂庄左衞門方に前借金百圓で雇はれて居つたが間もなく家出したので親元に居るのではないかと主人は二十三日平署に調査方を願ひ出た

磐新塔

小名濱町藝者屋藤田屋方抱藝者小清こと關シン(二二)は去る二十日午後十二時四十分同町下町料理店上遠野カネ方に於て登樓せる客人と十二時以後高聲を發し三味線に合せて相馬二へん返なる「向ふ小山」節を歌ひ近所の民家の安眠妨害をなした廉により長谷場、鈴木兩巡查に告發され二十五日科料三圓に處された

時劍

超黨派的に利權議員糾彈の輿論起る、平町會の威信、これより發程するであらう町民奮起の秋

□

湯本溫泉組合、區有金を割いて我等を救ひと迫るもある筈、町當局最善の考慮を拂ふ責任と義務がある

□

蛇や死を食ふ糧道實は大きな食はせ男、吹くも吹いた內務省囑托技師の醫學士とは笑止

□

巡查の袖を引く酌婦も惡いが二階まで上つて行つてこれを告發する巡查も酷い

□

犯罪を事前に防止するのが警察行政の本旨か强いて罪人を造るのが巡查の任務か敢て三省を望む

急告

每度御ひいきに預りまして難有ふ御座いました、皆樣御機嫌よく御過し遊ばされ誠に悅ばしく存じ上ます。扨て弊店儀昨今の不景氣に鑑み人氣回復の策として再び開業當時の職人を招き本日より

「ゑび天ぷら、カキフライ」

を始めました、從事より一層勉强致します一度御試食の上倍舊の御引立を御願ひ申上ます

十月廿五日

平田町
やぶそば
電話四番

營業種目

內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負

外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他

㊂ 佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話 三三五番

外科
一般外科
泌尿科
婦人科
醫學士 海津俊一
X光線科
木下寅一
院長 新妻由五郎
赤心堂病院
平町田町電四七五

萬屋貨物運輸部
電話二七三番
萬屋與一
家屋付貸地あり
養鷄場向理想の地御希望の方は來談ありたし

貸切自動車の御用命は
高級車で乘心地の好い
昭和タクシーへ
昭和タクシー
平驛前
電話は
三四三番
サシミ